

## 経営発達支援計画の概要

<b>実施者名</b>	剣淵商工会
<b>実施期間</b>	平成27年4月1日～平成32年3月31日
<b>目標</b>	空き店舗が増える中、商工業の振興を図るには、生活者の活力とコミュニティとしての賑わいを担う商店街の活性化を図り、剣淵町の名産である「じゃがいも」を使用した地域特産品・土産品の開発を行います。開発した商品は販路拡大を行い、特産品の販売を図ると同時に、剣淵町をPRし観光客を呼び込み、小規模事業者の売上を向上することを目標とします。
<b>事業内容</b>	<p>I. 経営発達支援事業の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の経済動向調査に関すること 経済情報・雇用情報等の入手を行い、職員間で情報の共有を図り、会員へ安定した支援を行います。</li> <li>2. 経営状況の分析に関すること 小規模企業の持続的発展に向け、巡回等を通じて経営分析を行い、現在の経営状況（収益・安全・生産）を実感してもらいます。</li> <li>3. 事業計画策定支援に関すること 上記1～2に係る分析を踏まえ、小規模事業者の持続的発展を図ります。</li> <li>4. 事業計画策定後の実施支援に関すること 上記3を小規模事業者に理解してもらい、支援計画の理解・実施する中で、地元各団体等とも連携をし、伴走型の指導・助言を行い持続的発展を図る。</li> <li>5. 需要動向調査に関すること 地域内のお買い物動向調査を行い、結果を分析することにより、消費者ニーズを把握し、報告書を全会員及び各関係機関へ配布します。</li> <li>6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 上記1～5の情報を分析し、販売促進を行う。方法として地元イベント・商談会・マスコミ・インターネットを使用する。</li> </ol> <p>II. 地域経済の活性化に資する取組 「じゃがいも」を剣淵町の名産と位置付けている事から、じゃがいもプロジェクトを発足し、各団体が委員となっています。しかしこの団体では、特産品の開発を行っていないことから、商工会と連携し、観光客を呼び込み為の一環として、特産品の開発を行います。</p> <p>III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組 商工会・商工会議所間連携や、地域他団体及び行政と情報交換を行っているが、剣淵町には町発展計画等会議が少ない事から、お互いの連携が上手く進まない状況、担当課と連絡を取り小規模事業者の発展に寄与する。経営指導員はじめ、職員の資質の向上を行うため勉強会を行いスキルアップを目指す。また、指導員とチームを組むことによりOJTにより伴走型支援を行う。</p>
<b>連絡先</b>	剣淵商工会 担当者 経営指導員 平岡 年雄 〒098-0332 北海道上川郡剣淵町緑町7番1号 Tel 0165-34-2648 Fax 0165-34-2197 Mail biba@eolas-net.ne.jp

(別表1)

経営発達支援計画

経営発達支援事業の目標

**1. 町の現状**

剣淵町は、北海道の中央よりやや北に位置し、東西10.8km、南北12.6km、総面積131.2km<sup>2</sup>の北海道の中では小さなまちです。面積の約50%を農耕地、約30%を山林が占めており、標高は最高440mで、大きな起伏はありません。

名寄盆地に属し、天塩川の支流・剣淵川がまちの中央部を流れ、剣淵川流域の平地とその両側の丘陵地帯は、いずれも農業に適した土地となっており、畑作・稲作を中心とした農業が基幹産業となっております。特にじゃがいもの生産が一番多く町の名産品と位置づけられています。

総人口は昭和29年の9,530人をピークに減少し、平成22年の国勢調査では3,569人で、年齢構成では、平成17年に65歳以上の住民が3割以上を超え、高齢人口が増えています。世帯数も少しずつ減少する方向で、1世帯あたりの平均人員も減少しています。

観光では、「絵本の里けんぶち」のイメージを前面に、明るい町並みの形成と来訪者の目を引くようなまちづくりを実施し、民間企業ではありますがアルパカ牧場があり、アルパカのえさやり体験や、6月実施するアルパカの毛刈りなど、見たい・触れ合いたいなど、小さい子連れの親子での観光客が多く来訪しております。また、2013年7月公演の絵本を題材にした映画「じんじん」のメインロケ地となり、上映後の観光客数も大いに伸びました。

**2. 小規模事業者の課題**

**剣淵町商店街の立地的課題**

剣淵町の商店街地区は、国道40号線から道々984号温根別ビバカルウシ線に入り3kmほどの位置にあります。そのため、国道沿いに面した道の駅「絵本の里けんぶち」には集客が見込めるものの、町内に観光客等呼び込むことに難を示しております。商店街は道々984号温根別ビバカルウシ線周辺に各業種が点在し、食料品や衣料・雑貨などの小売業や、飲食・理美容等サービス業及び医療関係や金融機関もあることから、剣淵町の商店街は、小規模ながら地域住民にとって日常的な暮らしや生活をささえる場として、大変重要な役割を果たしています。しかし、近隣に士別市があり、車社会に反映する形で、地元での買物より町外への買物する町民が多くなってきており、購買力の流出が大きい事や、消費者人口の減少・高齢化に伴い商店街内にも閉店する店が相次ぎ、空き店舗が増加し商店街の空洞化となり、地域における活力の低下により、更なる地域経済の低下が問題になっております。

**観光的課題**

絵本の里けんぶち・アルパカ牧場・映画「じんじん」があり、現在は夏季の観光は賑わっておりますが、観光客がJR剣淵駅へ降りても交通手段が無く、「アルパカ牧場」へ行くには3kmあることから徒歩では厳しい状況にあり、映画「じんじん」に至っては、映画で出てきた風景へ行きたくても、どこにあるか解らない状況でした。

## 特産品的課題

現在、②で観光客が来町しても剣淵町の名物・特産品が解らないと意見が多く、その質問に町民や小規模事業者も答えを出せない状況にあります。剣淵町には2件菓子店があり、その店のメインとなる土産はありますが、剣淵町とは所縁の無い材料を使用しており、特産品・名産品と謳うには問題があります。また、町民や小規模事業者の多くは「あったらいいです」「作れたらいいです」「剣淵には何もないから」と、最初から特産品・土産品に対する意識が薄く、剣淵町では「じゃがいも」を名産品と位置づけておりますが、実際には大手企業と契約している農家や、デンプンの原材料として使用している物が多いため、特産品や土産品と成り得ないと考えられております。

## 3. 商工会のこれまでの取組

### 剣淵町共通商品券振興事業、剣淵町プレミアム商品券事業

上記課題①のとおり、商店街が厳しい状況にある中で、商工会では購買力の向上と町外の流出の防止をめざし町内全店で利用できる共通商品券を発行し、町民が幅広く活用し一定の成果を上げています。また、剣淵町助成制度である「剣淵町住宅新築・改修促進助成事業補助金」でも、助成額の3分の1を当商品券での助成をすることを、当商工会から剣淵町へ要望し承諾を得ております。

さらに、平成24年からプレミアム付き全町共通商品券「絵本の里プレミアム商品券」を剣淵町から助成を得て発行しております。地元での購買力向上に大きく貢献しており、平成26年度においては6月1日～11月30日までの使用期間とし、15%プレミアム付き商品券販売事業として、1冊1万円、1,500冊・15,000千円を完売しております。

しかしながら、剣淵町共通商品券は地元住民に定着をしておりますが、プレミアム商品券は、平成24年度から実施しているため月日が浅い事や、プレミアム率が近隣町村より低いことから、地元住民からも軽視されている状況にあります。

### 小規模事業者地域活力新事業全国展開支援事業

上記課題②・③のとおり、剣淵町内観光や特産品が無い事に対し、平成25年度小規模事業者地域活力新事業全国展開支援事業の採択を受け、「絵本の里を軸とした観光ルート開発およびコースマーケティング型地域循環特産品開発調査事業」において、「絵本の里」をストーリーとした観光ルートの構築、絵本に出てくる“お菓子”や“料理”に関する調査をしました。結果的に観光協会等の意見もあり、「映画じんじん」観光ルートが自転車で見回れる距離を想定に作成され、道の駅をはじめ各観光名所に配布されました。

特産品開発では、「作品のイメージを崩さないことが重要である」との意見から、お菓子・料理等の特産品開発については断念せざるを得ないこととなりましたが、地域特産品の開発においてもじゃがいもをはじめとする食材の活用法、また、ワンハンドフード的な時代に合わせた特産品開発などを研究しました。

また、剣淵町観光の入り口の1つであるJR剣淵駅に、夏季限定ではありますが自転車レンタルを観光協会と連携し行いました。タクシー等が無い事から、観光客の利用状況は多く、需要は高いと感じました。

### **各種イベント開催・参加事業**

各種イベント等の地域振興事業についても活発に実施し、町内最大イベントの桜岡湖畔で開催される「けんぶち湖水まつり」や、剣淵町・商工会・農協が事務局を持ち回りし、各関係団体と共に連携して開催する「けんぶち夏まつり」は、ステージイベントや子供広場、飲食コーナーなど町民や観光客が楽しんでもらえるイベントを開催し、この他にも剣淵町の桜岡湖畔で桜にちなんだ「けんぶち桜まつり」や収穫を祝い、子供たちと共に作成する「ハロウィンかぼちゃランタン作り」、寒い冬を吹き飛ばす「けんぶちスノーフェスタ」など、剣淵町ならではのイベントを開催し、地域住民と商業者との交流の場となっております。

### **じゃがいもプロジェクト事業**

平成25年に剣淵商工会・剣淵町・農協等10団体が参画し「じゃがいもプロジェクト」を結成し、当商工会長が実行委員副会長となっております。事業内容では他イベントでの剣淵町のじゃがいものPR、食文化の継承・普及、剣淵産じゃがいもの啓発等を行っております。

## **4. これから目指すこと**

### **剣淵町商店街の持続的発展・空き店舗対策**

上記取組①にあるように、剣淵町共通商品券振興事業、剣淵町プレミアム商品券事業の商品券事業を継続的に行い、他市町村への購買力流出を抑えます。その為には、問題視されている、プレミアム商品券のプレミアム率を他町村まで引き上げを剣淵町へ要望します。その事によって剣淵町民がプレミアム商品券を購入し、剣淵町内での購買力が戻り小規模事業者の持続的発展が成されると考えます。

また、空き店舗対策を行っていないため、空き店舗数をはじめ・所有者・居住者の有無等・売却意志等を確認し、空き店舗を利用した事業や、購入意欲のある人との仲介等を行うことにより、空き店舗の減少を図り、活気のある商店街を目指します。

### **観光産業の充実化**

上記取組②にあるように、これから、商工業（小規模事業者）の発展を考えると、絵本の里けんぶち・アルパカ牧場・映画「じんじん」等の観光産業を基盤として考える必要があると思われまます。その為には、観光マップの更なる整備、それに合わせた移動方法などが必要と思われまます。（レンタルバイク等）レンタル自転車等利用者アンケートを行い、利用しやすい金額を考えるとともに、損益分岐点を出し、少しでも利益を出す方法を考え、最終的には地元小規模事業者等に管理運営を考えてもらうことを目指します。

## 剣淵町特産品（土産）の開発・販路拡大

上記取組②や目指すこと②であるように、町外からの観光客の要望や、剣淵町をPRすることを考え、地元住民・小規模事業者及び行政等と連携をして、地元農作物（じゃがいも）を使用した「けんぶちブランド」の特産品開発・販路開拓をする必要があります。事業内容としては、商工会が中心となり、「特産品作成・販路開拓プロジェクト」（仮）を作成し、会員食料品製造業や飲食業から集め、外部組織として町担当課及び、じゃがいもの知識を熟知しているJA北ひびき剣淵支所より数名をプロジェクトに参画して頂き、試作を踏まえながら完成を目指します。

町民や、観光客に試食して頂くために、取組③のイベントや、9月～10月に開催している士別市・朝日・剣淵・幌加内町・和寒町の1会議所4商工会共同で行っている「北のうまいもの市」に提供し、アンケート等を行い、今後の商品開発の参考とします。

完成した商品は、下記を利用し販路開拓・情報収集・PRを行います。

- ア. 全国商工会連合会      むらからまちから館
- イ. 全国商工会連合会      ニッポンセレクト. com
- ウ. 北海道商工会連合会      北の味覚、再発見！！
- エ. 北海道商工会連合会      なまらいいっしょ北海道
- オ. 商工会HP、地元新聞紙、北海道新聞等全道紙、ホットペッパー等地域情報誌
- カ. 北海道内のコンビニと提携し、特産品の販売。（セイコーマート等）

上記の事を踏まえ、観光産業の発展としても大きな位置づけとなることから、「じゃがいもプロジェクト」及び各団体と連携をとり、剣淵町の特産品の開発・生産を行います。その事により、将来的には剣淵産ブランドとして販路開拓・情報発信を行い、北海道ブランドの1つとすることで来街者を増やし、小規模事業者の売上を上げる事を目標とします。

そこで地元農産品（じゃがいも）を使用しての、特産品の開発及び広域的PR、地域ブランド化などを通じた地域活性化を取り組んでいかなければならないと感じています。年々縮小する地域経済にあって、いかに地域資源を循環させ、新たな需要を掘り起こすことが出来るかが課題であり、本町の基幹作物であるじゃがいもを活用した6次産業化が剣淵町にとっての課題と考えております。



※左 剣淵町産じゃがいも 剣淵の名産品と言われながら大手企業との契約や、デンプンの原材料とされている物が多い。

※右 剣淵町観光協会主催19回さくらおか湖水まつり  
剣淵商工会青年部売店協力

## 経営発達支援事業の内容及び実施期間

### (1) 経営発達支援事業の実施期間(平成27年4月1日～平成32年3月31日)

### (2) 経営発達支援事業の内容

#### ・経営発達支援事業の内容

#### 1. 地域の経済動向調査に関すること【指針】

現在当町の小規模事業者は、購買力が近隣市町村へ流出し、高齢化からなる廃業が相次ぐなど、商店街の機能が低下している状況であります。今回は上記目標でも掲げた、観光資源を活用した集客力の向上による、売上の増加をすることにより小規模事業者の活力を取り戻す為、下記の調査を行うこととしました。

地域内の動向調査として「道の駅けんぶち」及び「けんぶち絵本の館」で入場者数調査を剣淵町で行っているため、町からデータを頂き、分析し巡回の基礎資料として使用します。また、当商工会では町内の買い物動向調査を行っており、分析することにより地元消費者ニーズの動向を把握します。この2つの情報を分析し、照らし合わせることで現在の当町の現状や、今後の観光産業・地域経済状況を読み取ることができ、これからの事業計画の策定・修正等に役立つこととなり、小規模事業者の売上の増加が望め持続的発展に寄与できます。

北海道(道北)・全国調査では日経テレコン・POS情報等のインターネットを活用し、全国商工会連合会機関誌や、日本政策金融公庫・北星信用金庫資料等から金融機関視点からの経済動向を情報収集し、分析するとともに、職員会議で議案に乗せるなど職員間で情報の共有を図り、小規模事業者へ全国や北海道(道北)の広い範囲での観光動向・景気動向・商品価格情報・消費者ニーズ等の情報提供を行うと共に、その対策を行います。

※課題として、現在商工会には沢山の情報が収集されていますが、その活用は出来ておらず、また小規模事業者もそれを必要として感じていません。小規模事業者は自分で情報を仕入れしている状況にあります。今後は、小規模事業者の必要に応じ、情報を提供するとともに、巡回相談等も増やすことにより、口頭での小規模事業者のニーズを聞きメモ等を取り、具体化した情報を小規模事業者へ提供することにより、小規模事業者への理解度を高め、今後の経営計画の策定等を行っていきます。

(事業内容)

#### (1) 観光施設入場者数調査情報提供(地域内)

「道の駅けんぶち」・「けんぶち絵本の館」等町内の観光施設から、季節別・滞在時間別等入場者数調査の結果を入手し、年度別・月別等の各施設の入場者数を分析し、巡回指導の基礎資料として使用します。特に観光施設のデータは観光産業に大きな意味を持つことから重点的に調べ、地域内の観光動向を棒グラフ等見やすい表にして、小規模事業者へ具体的に説明します。説明から小規模事業者自身の観光資源の活用を共に考え、小規模事業者の経営分析・事業計画の策定に活用します。

## (2) お買物調査による情報提供（地域内）

定期的に行っている地元住民お買物調査（上川地方北部2商工会議所・8商工会連携）で得た情報を分析して、主に観光産業に携わる「ホテル・飲食業・食料品製造業」の課題の抽出を行うことにより、近隣他市町村と当町の比較を行い、小規模事業者自身の観光資源の活用を共に考え、小規模事業者の経営分析・事業計画の策定を行に活用します。

## (3) インターネット等活用方法による情報提供（北海道・全国）

日経テレコンには、企業・業界・市場・人物・海外地域を調べることが出来ます。特に業界及び市場を調べる項目は、業界のシェア・業況など基本情報を始め、消費のトレンドや調査・統計・マーケティングの情報収集が行えます。またPOS情報からは、売れ筋商品や商品ランキング情報を収集することが出来ます。

この2つを合わせる事により、当町・道北管内・全国と大きなシェアの情報が作成されます。作成した資料は棒グラフや見やすい表にすることで、小規模事業者の理解を高めるよう具体的に説明します。説明から小規模事業者自身の観光資源の活用を共に考え、小規模事業者の経営分析・事業計画の策定に活用します。

## (4) 商工会調査紙・金融機関調査紙による情報提供（地域内・北海道（道北）・全国調査）

全国商工会連合会小規模企業景気動向調査、日本政策金融公庫景気動向調査、北星信用金庫地域経済動向調査により、地域・北海道・全国の経済動向調査の情報及び分析を行います。分析結果を事業者へ提供することにより、地域内・道北・全国の情勢からの景況感を感じてもらうとともに、小規模事業者の現状を把握し観光資源の活用を共に考え、小規模事業者の経営分析・事業計画の策定に活用します。

### （目標）

上記（1）～（4）を組み合わせた情報から、全国・北海道（道北）・地域内の経済動向を比較・分析することで、小規模事業者の経営の向上と、新たな観光産業（資源）の発掘・活用を共に考えることにより、観光関連等の小規模事業者の継続的發展を目標とします。

支援内容	現 状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
地元施設入場者数情報提供件数	10件	20件	20件	40件	50件	50件
インターネット活用情報提供数	4件	20件	30件	40件	50件	60件
商工会・金融機関紙情報提供数	13件	20件	30件	30件	30件	40件

## 2. 経営状況の分析に関すること【指針】

小規模企業の持続的発展に向け、経営指導員の巡回・窓口相談、各種セミナーの開催等を通じて、小規模事業者の損益計算書・貸借対照表・キャッシュフロー計算書を用い、収益性・安全性・生産性の経営分析を行い、小規模事業者に解りやすく図などを用い説明し、経営状況を把握・実感してもらいます。

※課題として、情報・分析結果をビジュアル的に伝える機会が少ない為、解りにくい説明となることが多々あります。この課題を解決するため、分析結果をタブレットを活用するなど見やすい図表の作成を行い、小規模事業者に解りやすく説明します。

(事業内容)

- (1) 巡回訪問、今後注力する目標の「観光・特産品開発」に特化した戦略セミナーの開催、経営に関する相談業務において分析の対象となる小規模事業者をピックアップし、現在の経営状況を把握し、専門知識を有する上記関係機関と連携することにより、経営分析で売上高・利益率・損益分岐点等の項目を元に経営分析を行い、そこから売上・収益を伸ばす方法を経営指導員と共に検討します。

以上の結果をもとに経営課題を抽出するとともに、小規模事業者経営改善に結びつけ、経営の持続的発展に活用します。

(目標) 上記の事業内容を効果的・効率的に進めるために、下記のとおり目標を計画します。

支援内容	現 状	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
巡回訪問件数	400 件	400 件	450 件	450 件	500 件	500 件
セミナー開催回数	1 回	1 回	2 回	2 回	2 回	2 回
経営分析件数	0 件	3 件	5 件	7 件	10 件	15 件



### 3. 事業計画策定支援に関すること【指針】

事業者が経営課題を解決するため、上記1. の地域の経済動向調査（1）～（4）、上記2. 経営状況の分析（1）に係る分析を踏まえ、剣淵町・北星信用金庫等とも連携して事業計画策定支援を行い小規模事業者の持続的発展を図ります。

また、地域における新規創業者及び第二創業者の開業支援等の為、剣淵町・北星信用金庫・日本政策金融公庫等と連携して創業塾を開催するなど、創業支援を行います。

※課題として、上記でも述べたように分析結果を伝えているだけで、小規模事業者が理解を得ているかの確認はなされていない。この議題を解決するために、各分析結果の情報提供はもとより、事業策定の必要性についても説明をして、指導員の伴走型支援を得ながら、策定を行う。

また、新規創業者に対する講習会・説明会等の周知について、商工会会報及び商工会と隣接する「けんぶちまちの駅」にポスターを掲示するのみとなっているため、少数の参加人数となっております。この課題を解決するために、剣淵町役場等の公共施設にポスターの掲示や、商工会HPに掲載するとともに、会員へ巡回相談時に周知し積極的な参加を促します。

（事業内容）

- （1）事業計画策定等に関する販売戦略セミナー、売上向上、販路開拓等個別相談会の開催により、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起こしを行います。
- （2）窓口相談・巡回相談時に、小規模事業者からの相談を受けるとともに、書類形式に捕らわれず、その考えを目に見えるようにする為、箇条書き方式で表現して書類アレルギーを取り除きながら、事業計画策定を目指す小規模事業者の掘り起こしを行う。
- （3）事業計画策定を目指す小規模事業者の他、金融相談、小規模事業者持続化補助金、ものづくり補助金の申請時に事業計画の策定支援を行います。小規模事業者持続化補助金の活用に会員全体に周知を行い、小規模事業者が設備投資に意欲が湧くよう制度の説明をして、事業計画と共に今後多くの小規模事業者が活用するよう推進を図っていきます。
- （4）創業塾（全4回開講）を開催し、創業希望者の知識向上を図り、創業者の財務上の壁となりうる資金面では、日本政策金融公庫のアドバイスを頂きながら、国の融資制度を活用できるよう計画作りを行い、創業計画の策定支援を行うことにより、開業への道筋を支援します。
- （5）第二創業に関しては、ミラサポ・よろず支援拠点等を活用した個別相談会を開催し、第二創業計画の策定を専門家と共にアドバイスするなど、伴走型支援を行います。

(目標)

上記の事業内容を効果的・効率的に進めるために、下記のとおり計画します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
セミナー・説明会開催回数	1	1	2	2	2	2
事業計画策定事業者数	0	1	3	5	7	10
持続化補助金活用件数	0	4	6	6	6	10
創業塾開催回数	未実施	4	4	4	4	4
創業支援者数	1	1	2	2	2	2
第二創業(経営革新)支援者数	未実施	1	1	1	1	1

#### 4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針】

上記3. 事業計画策定支援後の事業計画実施支援は、下記のとおり行います。

(事業内容)

- (1) 事業計画策定後に、必要に応じて国・北海道・釧路町・よろず支援拠点の行う支援策等を実施することにより、フォローアップを実施し、小規模事業者の経営の持続的発展を図ります。
- (2) 事業計画策定後に、巡回訪問し、進捗情報の確認を行うとともに、必要な情報の提供・指導・助言等を行うことにより、小規模事業者の経営の持続的発展を図ります。
- (3) 創業後は、ミラサポ・よろず支援拠点などを活用した個別相談会を開催、担い手交流会を開催することにより、先輩経営者と新経営者とのコミュニケーションが図られ、商売の情報共有が出来ます。巡回訪問による個別フォローアップでは、販売計画・仕入管理・損益分岐点の活用並びに税務相談及びキャッシュフローなど重点的にアドバイスを行い、伴走型の支援を行います。

(目標)

上記の事業内容を効果的・効率的に進めるために、下記のとおり計画します。

支援内容	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
フォローアップ件数	0	2	5	10	15	18
創業・事業承継実施件数	0	1	1	1	2	2
担い手交流会	未実施	1	1	2	2	2

## 5. 需要動向調査に関すること【指針】

消費者の地域内動向調査については、当商工会で行っている「お買物動向調査」を分析します。また広範囲である全国・北海道（道北）の動向調査では「日経テレコン・POS情報」、日本政策金融公庫総合研究所が発行する「経済・金融データ」や「調査月報」・「全国中小企業動向調査」等による調査分析情報を基に需要の把握を行い、消費者ニーズの的確な把握と分析結果の情報を小規模事業者に対して提供します。

より高度な需要動向調査を行う場合は、北海道・剣淵町・北海道商工会連合会・ミラサポ・よろず支援拠点のコーディネーター等と連携し、専門家視点から見る、高度な需要動向調査を行います。

※課題として需要動向調査を行う際に、小規模事業者への理解が少ないことがあると考えられます。冊子で配布するにとどまらず、巡回時にノートPCやタブレットを使用し、過去の数値との比較等を同時に見る事の出来る表や図を用いて解りやすく説明します。

(事業内容)

- (1) 事業者の商品の需要について、お買物動向調査により収集・分析を行います。商工会が実施するお買物動向調査は、100世帯へ郵送により配布します。アンケート結果は下記のとおり項目を別にし、実施結果を分析し棒グラフ等が見やすくした状態で、小規模事業者に配布、説明をします。そのことにより、町内の消費者需要の傾向が解り、小規模事業者は顧客の需要動向に合わせた品揃え・販売戦略を取れます。
  - ア. 調査対象世帯の状況（世帯人数等）
  - イ. 商品別の買物場所・店舗形態・買物理由・使用交通方法
  - ウ. 商店街・一般商店での買物について
  - エ. 通信販売やインターネットでの買物について
- (2) 上記（1）では地元住民に対する需要動向のみの結果であることから、外部（観光客）環境が解らない状況であります。今後外部環境を知るために観光客向けアンケートを作成し、「道の駅けんぶち」・「けんぶち絵本の館」等町内の観光施設及び、ホテルの受付に設置し、観光客に対してアンケート調査を行います。アンケートは、①利用者の住まい（町内・道北・道内・国）・②剣淵町のお土産（開発）・③剣淵町の認知度を調査し、毎月月末に回収することにより、その傾向を取りまとめ年度別・月別データとして把握します。この観光客に対するアンケート結果と上記（1）を組み合わせることにより、剣淵町の需要動向を知ることが出来るので、小規模事業者に情報提供することにより、月別による売れ筋商品の陳列、観光客向けお土産の開発へのヒント、サービス・接客の向上が見込まれます。
- (3) インターネット上から「日経テレコン・POS情報」・日本政策金融公庫機関誌及び、北星信用金庫機関誌等を活用し、需要動向の分析を行ったうえで上記1. 地域の経済動向調査に関することと組み合わせ、より質の高い経済動向調査票を作成します。調査票は商工会HP及び、広報誌に掲載するとともに、巡回時に小規模事業者へ説明を行うことによって、理解を深めてもらいます。

- (4) 上記(1)～(3)の調査・結果について、より高度な需要動向調査を行う際には、北海道、剣淵町、北海道商工会連合会、ミラサポ、よろず支援拠点のコーディネーター等と連携し、アンケート調査の見直しを図るなど、専門家視点から需要に関する動向調査を行います。

(目標)

上記(1)～(4)を組み合わせた情報から、全国・北海道(道北)・地域内の需要動向を照らし合わせる事で、地域内外の需要を比較することが出来ます。これらの比較結果を観光関連等の小規模事業者へ情報提供する中で、地域特産品の開発に活かし、新たな観光資源(産業)の発掘に繋げる事で、地域経済の需要拡大を図っていきます。

これらにより将来的に、剣淵町の観光地としてのブランド力・観光客の集客力を高めることで、観光関連を中心とした小規模事業者の売上・利益の増加による、継続的發展を目標とします。

支援内容	現 状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
インターネット活用情報提供数	4件	20件	30件	40件	50件	60件
商工会・金融機関紙情報提供数	13件	20件	30件	30件	30件	40件
専門家派遣件数	0件	0件	2件	2件	4件	4件

## 6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針】

これまでの1～5までに示した地域の経済動向や小規模事業者の経営分析を活用して、販売促進のための品揃えやサービスの向上に役立てます。また、既存のプレミアム付き商品券の発行を継続し、消費者に対する購買意欲に繋げて小規模事業者の売上の増加を促進します。

今後の地域における特産品の開発・商品化・認知度の向上を図るために、下記のイベント・事業等に参加し、消費者及び関係業者にPRするとともに商品に関する情報を収集し、販売促進するとともに、更なる商品の進化に繋げていきます。

※課題として、情報が一方的に発信されているだけで、情報の共有がなされていません。この課題を解決するために、商工会が保有している情報は、出来る限り商工会HP及び会報を活用して掲載するとともに、巡回指導時に会員との情報の共有を行います。また、経営指導員も新制度等に敏感に反応するように気を付け、小規模事業者に有益な情報（小規模事業者経営発達支援融資制度等）を絶えず提供します。

(事業内容)

### (1) 販路開拓事業（地域周辺）

北のうまいもの市を開催することにより、地域特産品の販路開拓を致します。北のうまいもの市は、朝日商工会・剣淵商工会・幌加内町商工会・和寒町商工会及び、士別商工会議所が協力して、年一回9～10月頃実施し、開催場所は5地域で回り順で行っております。出店対象者は、地域の特産品を扱っている小売業および、地域資源を使用した食品製造業を条件としています。出店者は、商工会事務局と共に商品のPRと売上向上及び消費者ニーズの情報収集を行い、今後のより良い商品づくり及び新商品のアイデア発掘を行っています。

### (2) 販路開拓事業（北海道地区）

下記のイベントに向けて、北海道・剣淵町・北海道商工会連合会・北星信用金庫等と連携をし、小規模事業者に対して出展支援を行い、剣淵町の特産品と認知度の向上を図ってまいります。

既存の商品や新商品特産品のPRを行うため、下記のイベントに参加し剣淵町を認知度の向上を図ることを目標にするとともに、特産品の見た目・味覚・価格設定等アンケートを行い、既存の商品の見直し及び新商品の新たな発掘を行います。

また、特産品の紹介を新聞紙や情報誌へアピールなどのマスコミなどへPRを行い、記事として取り入れてもらうことにより、剣淵町及び特産品のアピールを行います。

#### ①. イベント出展に伴う販路開拓

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 北海道商工会連合会 | 北の味覚、再発見！！  |
| 2. 北海道商工会連合会 | なまらいいっしょ北海道 |
| 3. 北海道       | 食クラスター連携事業  |
| 4. 旭川市       | 北の恵み 食べマルシェ |

#### ②. 情報配布に伴う販路開拓

1. 北都新聞（地元新聞社）、北海道新聞等（北海道紙）
2. 旭川タウン情報・ホットペッパー等地域情報誌

### (3) 販路開拓事業（インターネット・販売委託）

インターネットを活用し、下記のホームページに既存の商品及び新特産品を紹介・販売をすることにより、小規模事業者の売上の向上及び剣淵町の特産品のアピールを行います。

また、全国商工会連合会が行っている「むらからまちから館」に販売を委託することにより、首都圏である東京に北海道剣淵産ブランドの商品を販売し、小規模事業者の売上の向上と剣淵町のPRを行います。

インターネットに伴う販路拡大

1. 全国商工会連合会           ニッポンセレクト. com
2. 剣淵商工会                独自ホームページ（販売不可）  
    ※近日リニューアルする共に、販売も兼ねるHPの作成
3. 近隣商工会とのリンクをすることにより、HP閲覧率を上げ、剣淵町のPR

### (4) プレミアム商品券事業

平成24年度より実施しているプレミアム付き商品券（絵本のりけんぶちプレミアム商品券）事業を平成27年度は、消費税アップによる消費の縮小、町外へ購買力の流出により、商工業者の多くが売上や収益の減少によって益々地域経済の状況が悪化すると考えられます。その中で、剣淵町へ要望し補助金を活用して実行しております。平成27年度は国からの補助もあることから、町もプレミアム率及び発行枚数を上げて商品券の販売を準備しております。

この事業によって、消費流通の確保並びに地元消費を促進し、小規模事業者の持続的発展・町民生活の支援と地域経済及びまち全体の活性化を図ることによって、活力あるまちを推進します。

（目標）

上記の事業内容を効果的・効率的に進めるために、下記のとおり計画する。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
北のうまいもの市開催回数	1	1	1	1	1	1
北の味覚、再発見！等出展回数	0	0	1	2	3	3
新聞・情報誌へ掲載	0	2	2	4	4	4
インターネット更新回数	2	6	6	6	6	6
むらからまちから館出店小規模業者数	0	1	1	2	2	3
プレミアム付商品券発行総額	15,000 千円	40,000 千円	20,000 千円	20,000 千円	20,000 千円	20,000 千円

## ・地域経済の活性化に資する取組

平成25年度より「じゃがいも」を剣淵町の名産と位置づけ、地域の農業、商工業、観光など、剣淵町経済の活性化を図ることを目的に、じゃがいもに関連した事業を「じゃがいもプロジェクト」を発足しております。剣淵町長が実行委員長となり、商工会長・農協副組合長が副委員長となっております。実行委員会は、町・町議会・農協・商工会・観光協会・農民連盟・農業改良普及センター・で組織し、各機関・団体の代表10名が実行委員となっております。また、生産振興会・農協や商工会青年部・女性部などの代表による推進部会があり、事業を推進しております。

剣淵町観光協会の組織員に、剣淵町・農協・商工会等各団体が委員となっており、町外来街者向けイベント「けんぶち湖水まつり」の企画・開催を行っております。地元小規模事業者・商工会青年部・女性部等各団体の出店・販売が行われ、また、別会場にて絵本の読み聞かせ等、「絵本の里けんぶち」ならではのイベントも多くあります。開催により地元商店街が賑わい、剣淵町のPRが期待されています。また、町内向けイベントとして、「けんぶち桜まつり」「けんぶちスノーフェスタ」があり、地元住民と商工業者の情報交換の場や、売上等による剣淵町経済の活性化がなされています。

しかし、商店街の衰退化が顕著となっている今、改めて小規模事業者個々の力の終結が強く求められており、加えて超高齢社会を迎えた今、地域の現状を十分理解した小規模事業者の力が必要とされております。「必要される・期待される」商店街・小規模事業者による地域の活性化が求められていることから、商店街に点在する空き地・空き店舗の活用を図る為「空き地・空き店舗活用方法計画」の策定を進めます。この事業は商工会のみの事業ではなく、剣淵町・剣淵町観光協会・商工業者・商工会3部会長（商業・工業・サービス業）・青年部長・女性部長を入れ、新しい組織作りを検討し、対策を練らねばなりません。

※上記事業は、「I. 経営発達支援事業」の実施に当たり、情報提供及び活用を促し経営力向上に繋がります。

### （事業内容）

（1）「じゃがいもプロジェクト」による事業展開を行っております。事業内容は次のとおり。

- ① じゃがいもによるイベントの実施  
けんぶち道の駅で行われるイベントに合わせた事業の実施
- ② じゃがいも食文化の継承・普及  
町内で受け継がれているじゃがいもを利用した料理や食べ方のレシピ化と試食会
- ③ 剣淵産じゃがいもの啓発  
剣淵町で作付け、生産されているじゃがいもの特徴などをまとめ、剣淵産じゃがいもを紹介
- ④ じゃがいもプロジェクト事業の啓発  
じゃがいもプロジェクトのRPなど

しかしながら、「じゃがいもプロジェクト」の基本計画では、新商品等の開発は無いので、剣淵商工会「特産品開発・販路開拓プロジェクト」と「じゃがいもプロジェクト」が連携し、特産品の開発・生産することによって、剣淵町を新しい形でのPRが出来ます。それにより、新たな観光の起爆剤となることも考えられ、将来的に観光客が増え、小規模事業者の売上増に繋がり剣淵町経済の活性化すると考えます。

- (2) 観光協会主体で「けんぶち湖水まつり」の企画・開催を行っております。剣淵唯一の町外向けイベント・お祭りであり、来場者数3,000人となります。商工会からは、青年部・女性部の売店の参加を行っております。地元小規模事業者からの出店も多くあり、売上向上の機会が得られ、また剣淵町をアピールするステージイベントが多くあり、認知度を高め、今後の観光に寄与すると考えます。
- (3) 剣淵町・商工会・農協等関係機関で組織した実行委員会形式で実施される「けんぶち夏まつり」を開催しております。8月下旬の2日間開催で、初日は盆踊り・花火大会があり、2日目は商工会青年部・女性部等各団体や、小規模事業者の売店事業・ステージイベントが開催されます。町内向けイベントであり、地元住民や帰省客と小規模事業者の情報交換や売上等に寄与しております。
- (4) 観光協会で「けんぶち桜まつり」「けんぶちスノーフェスタ」を開催しております。桜まつりは桜岡湖畔で行われ、スノーフェスタは商店街地区で行われております。どちらも会場に地元住民が多数訪れるイベントとなっております。

(目標)

上記の事業内容を効果的・効率的に進めるために、下記のとおり計画する。

項目	現状	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
特産品開発・販路開拓プロジェクト	0	4	4	6	6	6
じゃがいもプロジェクト実行委員会開催回数	2	2	4	4	4	4
剣淵湖水まつり出展者数	16	16	17	17	17	17
剣淵湖水まつり来場者数	3,000	3,100	3,100	3,200	3,200	3,200
剣淵夏まつり出店者数	21	21	21	22	22	22
剣淵夏まつり来場者数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
剣淵桜まつり来場者数	260	270	280	290	300	300
剣淵スノーフェスタ来場者数	650	650	650	650	650	650
空き地・空き店舗活用方法計画会議回数	0	2	4	4	4	4



## ・経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

### 1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

これまでも、地域経済の活性化や経営改善事業等について、他の支援機関と情報交換を行ってきましたが、その内容は表面的な情報交換に留まっていたことから、小規模事業者の経営発達に焦点を絞り、積極的に意見交換がなされるよう情報交換の場を活用・運営し、円滑に支援事業が遂行出来るよう行っています。

#### ① 商工会・商工会議所間連携

ア. 商工会連携では、「朝日・剣淵・幌加内町・和寒町商工会広域連携協議会」の「テラスミーティング」(経営支援会議)にて、各商工会の実施事業内容の情報交換や支援ノウハウ・支援の現状・地域経済状況について情報交換を行っています。

また、士別地域の地域経済活性化についても上記団体の他、士別商工会議所との「1市4商工会経済懇話会」において、広域としての課題を掘り下げ、「面」として取組む支援策等について情報交換をします。

イ. 日本政策金融公庫が行っている「小規模事業者経営改善貸付推進協議会」において、道北(上川・留萌北部・宗谷)地区の経営指導員から、地域経済状況や、各町村での融資制度(利子補給等含む)、各イベント等情報交換を行っています。

#### ② 地域間・行政間連携

ア. 「剣淵町産業経営者育成資金貸付審査委員会」と剣淵町の融資制度会議で、剣淵町・商工会・JAきたひびきの職員が出席するがあり、最後に各団体の経済状況や対町民・会員・組合員に対する支援状況などを報告説明し、定期的に情報交換を行っています。また、観光協会事務局会議等終了後に町担当課職員と情報交換会を行っています。

※しかしながら、行政となる剣淵町との今後の剣淵町の発展計画等会議が少なく、お互いの連携がうまく取れていない状況下にあります。今後は、剣淵町担当課「まちづくり観光課」と連携を密にとり、今後の剣淵町および、小規模事業者の発展に寄与してまいります。

## 2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

職員数が少ない小規模な組織にあつては、業務が固定しがちとなり、職員個々の向上心が希薄となりがちであり、このような状況下で経営発達支援事業を限られた職員数の中で、直実・迅速に行っていくためには、組織が計画性をもって職員の研修体制を確立し、本人の自覚とやる気を引き出すことのできる環境を整備することから、職員個々のスキルアップを図ることとします。

具体的には、発達計画の実効性を高めるためには小規模事業者の生きた声を吸い上げ、把握していく事が不可欠であるが、職員が個々の事業者の内実を含めた現状の把握力が不足していることから、「巡回指導」の強化により会話を進め、必要とされる判断力や指導力を培っていきます。また、全国商工会連合会が主催する研修の参加に加え、北海道商工会連合会が主催する「全道商工会経営指導員研修会」や中小企業大学の主催する研修に経営指導員が年間1回以上参加することで、売上げや利益を確保することを重視した支援能力の向上を図り、これらの研修から得られた成果を定期的に行う職員会議で報告し、その成果を職場内で共有することで、各々の能力の向上を図り、職員全体としての資質の向上を図っていきます。

さらには、経営指導員の能力を十分に発揮するためにはその業務を補完する仕組みが必要であり、職員、特に補助員の資質の向上が必須であることから、当該計画の策定をはじめ当初から関わりを密にするなど、育てる環境に留意するものとし、「職員資質向上勉強会」では3時間の研修をもって、補助員・記帳専任職員等も参加し組織内で経営指導員はじめその他職員とノウハウを共有するとともに、若手経営指導員・補助員等については、4商工会広域連携協議会の、「テラスミーティング」(経営支援会議)において、ベテラン経営指導員とチームで小規模事業者を支援すること等を通じて、指導・助言内容、情報収集方法を学ぶなど、OJTにより伴走型の支援能力の向上を図ります。

## 3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること

毎年度、本計画に記載の事業の実施状況及び成果について、以下の方法により評価・検証を行います。

- ① 経営改善委員会、まちの駅等運営委員会（学識経験者として、剣淵郵便局杉澤治局長を委員として任命）により、事業の実施状況、成果の評価・見直し案の提示を行います。
- ② 事業において、評価・見直しの方針を決定します。
- ③ 事業の成果・評価・見直しの結果については、定時総会へ報告し、承認を受けます。
- ④ 事業の成果・評価・見直しの結果を商工会報の配布及び商工会HPに掲示し、計画期間中公表します。

(別表2)

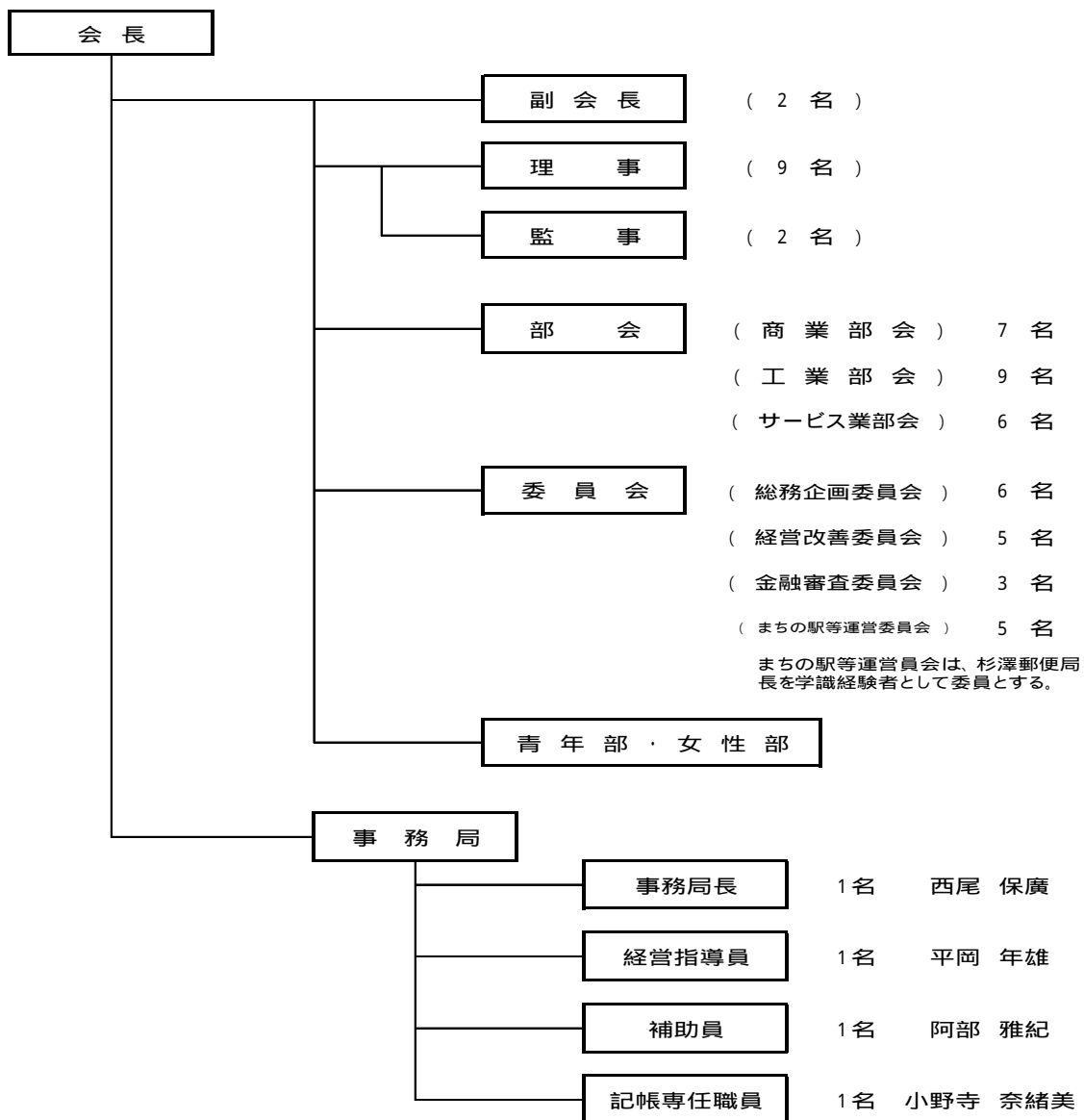
経営発達支援事業の実施体制

経営発達支援事業の実施体制

(平成27年4月現在)

(1) 組織体制

剣淵商工会組織図



(2) 連絡先

剣淵商工会  
〒098-0332 北海道上川郡剣淵町緑町7番1号  
Tel 0165-34-2648 fax 0165-34-2197  
Mail [biba@eolas-net.ne.jp](mailto:biba@eolas-net.ne.jp)

(別表3)

経営発達支援事業の実施に必要な資金の額及びその調達方法

(単位 千円)

	平成27年度 (27年4月以降)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
必要な資金の額	8,148	8,148	8,148	8,148	8,148
経営改善事業費	385	385	385	385	385
旅費	265	265	265	265	265
講習会開催費	90	90	90	90	90
小規模事業施策普及費	30	30	30	30	30
地域振興事業費	7,763	7,763	7,763	7,763	7,763
総合振興費	7,053	7,053	7,053	7,053	7,053
商工業振興費	470	470	470	470	470
広域連携事業費	240	240	240	240	240

(備考) 必要な資金の額については、見込み額を記載すること。

調達方法
会費、国補助金、県補助金、市補助金、事業受託費

(備考) 調達方法については、想定される調達方法を記載すること。

(別表4)

商工会及び商工会議所以外の者と連携して経営発達支援事業を実施する場合の連携に関する事項

連携する内容
1. 経営分析・需要動向調査分析における専門的課題解決 2. 創業・第二創業支援における講師等 3. 小規模事業者販路開拓支援における出展支援 4. 地域活性化事業の空き店舗の活用方法計画策定 5. 地域活性化事業のけんぶち桜まつり、けんぶち湖水まつり、けんぶち夏まつり、けんぶちスノーフェスタの実施
連携者及びその役割
1. 北海道 代表者：北海道知事 高橋 はるみ 住 所：北海道札幌市中央区北3条西6丁目 役 割：施策普及支援、経済動向調査、情報発信 2. 剣淵町 代表者：剣淵町長 早坂 純夫 住 所：北海道上川郡剣淵町仲町37番1号 役 割：施策普及支援、経済動向調査、商品・サービス発掘支援・特産品開発支援 特産品販路開拓支援・情報発信・情報共有 3. 日本政策金融公庫旭川支店 国民生活事業 代表者：事業統括 森田 太郎 住 所：北海道旭川市4条通9-1074-12 役 割：金融支援、経済動向調査、情報共有 4. 北星信用金庫 剣淵支店 代表者：支店長 上林 勝巳 住 所：北海道上川郡剣淵町仲町32番12号 役 割：金融支援、経済動向調査、情報共有 5. 独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部 代表者：本部長 中島 真 住 所：北海道札幌市中央区北2条西1丁目1番地7 役 割：専門家派遣、施策普及支援、経営分析支援、情報発信、情報共有 6. 北海道よろず支援拠点 代表者：コーディネーター 中野 貴英 住 所：北海道札幌市中央区北1条西2丁目 役 割：専門家派遣、経営分析支援、商品・サービス発掘支援、情報発信、情報共有 7. 剣淵町観光協会 代表者：会長 卯城 規伊 住 所：北海道上川郡剣淵町緑町7番1号 役 割：情報発信、情報提供 8. 北ひびき農業協同組合 剣淵支所 代表者：基幹支所長 加藤 裕 住 所：北海道上川郡剣淵町仲町36番5号 役 割：特産品開発支援、特産品販路開拓支援、情報発信、情報共有 9. じゃがいもプロジェクト 代表者：代表 早坂 純夫 住 所：北海道上川郡剣淵町仲町37番1号 役 割：特産品開発支援、特産品販路開拓支援

連携体制図等

